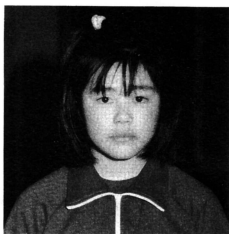


おじちゃん
からの
ひとこと

孫は多いが、やっぱり内孫が一番かわいいよ。二人とも女の子のせいとか、とても仲よく、気持ちのやさしい孫たちだ。目標はいっぱいあるんだが？せめて、みちるたちが成人になるまでがんばりたいと思っている…。みちるたちの花嫁姿も見たいナァ…。



小山内 みちる
(十三小・6年)

今月の主な記事

62年度の施政方針	1
62年度一般会計予算	2～5
62年度特別会計予算	6
商品化に自信深める	7
着任教職員を励ます会	8
新入学児童の入学式	9
人権モデル地区	10
町内会が総会	11
萬谷さんアフリカへ	12
おしらせ	13
健康へのみち・戸籍の窓	14

祖父は私の父

私の祖父は、とても働き者です。春になると、軽トラで魚を売りに歩きます。だから朝は三時ごろから起きて仕入れに行きます。祖父の楽しみは、仕事から帰って来て、酒を飲むことです。酒を飲むと、とてもゆかいになり、昔の話をしたり、歌をうたったりします。

四年生の時、父をなくしてからは、祖父が父のかわりをしてくれます。

「みちるが、大人になるまでは、じいちゃんがんばるからな。」

と、いつか、魚売りに出かけて行きます。そんな祖父を私は大好きです。でも、今の私には、何もしてあげることができません。できること

と、いえば、長生きをしてほしいと願うことだけです。私が大人になったら、たくさん菜

をさせてやりたいと思っています。

私の好きなおじちゃん、白さいまでも生きて、父のぶんまで長生きしてほしい。

方針 行政 中々細かな施策を展開 可能性に挑戦

村長 三重 貢



800万円の台所

先見性と独創性を発揮

私は四年前、海と山と湖」という無限の資源を活用し、第一次産業の生産倍増と、二百人雇用の新たな労働市場の創出を図るなど、「先見性と独創性」を発揮した村おとしを進め、若者の定住促進と過疎からの脱却を基本的な政策課題に掲げて村長に当選させさせていただきました。

以来、今日までその公約の実現と、揺るぎない市浦村発展のため、各般にわたる積極的な施策を実施してきました。そのいくつかを総括してみます。まず第一に農業の生産性倍増については、未利用農地の有効活用による複合経営の推進を図るべく、収益性の高いミニク栽培の普及奨励に努めると共に、野菜及び山菜の産地形成をめざして、ハウス栽培展示園や試験畑を設置し、その可能性をさぐって参りました。

可能性に挑戦

また、畜産については、生産者と行政が一体となり、同一認識のもとに肉用牛の関連事業を円滑に進め、先行き不透明な畜産事業のより一層の振興を図るべく、社団法人市浦村畜産振興公社を設立し、合わせて獣医師の常駐体制をとおり、事故牛の治療のほか、損害防止事業を積極的に進めてきたところであります。

充実に つくる漁業の

水産業については、四万二千平方メートルに及ぶアワビ漁場の造成、十万個の稚貝放流をすべし、中間育成施設の建設のほか、三百万粒のふ化機能を有する、サケの増殖施設の拡張を図り、つくる漁業を充実させながら、漁民生活の安定向上に努力してきました。

また、六十二年度からは西海岸漁民の熱い視線の中で、十三湖前湖に急鵜のヒラメの中間育成施設が着工されることになったのも、これまでの地道な運動の成果であると考

企業誘致による若者定住

第二に、二百人雇用体制の問題であります。市浦村は合併以来三十年のあゆみの中で、人口が千八百人減少しました。

つまり、総人口の三分の一がいなくなったのであります。この背景には、「ふるさと」や祖先に対する純粋な愛着を感じながらも、現実日常生活の維持が困難となったため、やむなく生まれ故郷を後にして、県外へ出て行かざるを得なかった深刻な問題が内在しているのであります。

私は、こうした住民生活の実態に深い憂慮の念をいだき、市浦村の産業構造の多角化を図り、若者が定住できる安定した就業の場をつくるため、率先して企業の誘致に取り組んで参りました。「広い土地」と「安い労働力」だけでは、企業側にも目を向けさせることは出来ない。企業が求める良質な労働力を提供するため、技能者集団の養成を図ることを骨子として、ふるさと定住対策条例」を前面に掲げて、土地造成と工場建設は村で行ない、経営

えています。

は一切企業に委ねるといふ、いわゆる公設民営という市浦方式をのみ出し、女子型ではあります。現在、百四十名の従業員を採用し、年間約一億五千万円の新しい産業を創出し、まさに本村では、米の収入に次ぐ大きな産業に成長しておることであります。

私の言う二百人雇用体制づくりは、単に企業を誘致するだけではなく、一次産業の加工を行ない、それに附加価値を高め、一、五次産業の振興を図ることであります。

国土庁の山村地域資源高度活用促進モデル事業の指定を受け、木材工芸センター、農水産加工センター等の建設に踏み切ったのも、二百人雇用体制の一貫として行なったものであります。

地域資源活用による活性化

第三点としては、半島振興地域指定、竜泊ラインの開通、高速交通体系の充実など外的環境が整備されつつあるところから、本村の持つ歴史と文化財を観光に生かす、地域経済の活性化を図るべく、過疎地域活性化プロジェクト事業の指定を受け、商工観光など第三次産業の振興にも十分意

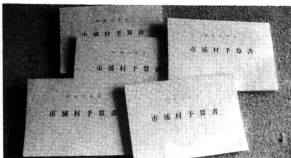
を注いできたつもりです。

村UVSは 人UVS

第四点目としては、すべての村づくりは人づくりにあるとの観点から、太田小学校の建設、中学校の大規模改修、教員宿舎の建設、スボーツ広場の整備、通学道路の新設改良のほか、地域の生活文化の振興を図るため、「ふるさとまつり」の充実など、それぞれ精力的に取り組んできたのであります。

以上、この四年間の概要をたどって参りましたが、これらは私一人の成果だとは決して考えておりません。議会をはじめ村民各位の積極的な理解と協力があつたればこそであり、深く感謝申し上げます。

今後これにどんな肥料を与え、どんな花を咲かせるか、すべてが今後に残されてくる。私が描ってきた道は、丹精込めてその手入れをすることが、今の私に課せられた使命であり責任でもあると、肝に銘じております。村民みなさまのご指導・協力をお願い申し上げます。



昭和62年度一般会計予算

15億9千

今年の重点施策

産業基盤の確保と
地域経済の活性化
歴史文化の豊かな
ふるさと創造と
人づくり

市浦村はいま、厳しい財政環境の下に置かれていますが、地域においては、ポスト三期対策やシジミの異常へい死、あるいは全般的な不況ムードが村全体を覆い、活力が減退されつつあります。

自治体行政は、現実にもその生活をしている住民のためのものである以上、可能な限りの力を発揮して、住民のためになる施策に強力に実施していくべきであるとの考えから、昭和六十二年の予算編成方針を策定するにあたり、産業基盤の確保と地域経済の活性化、

◆ 歴史文化の豊かな、ふるさと創造と、人づくり

等を重点施策に掲げて、地域振興を図ることとしたものです。

その結果、昭和六十二年の予算は、一般会計で十五億九千八百円、特別会計七億八千五百七十九万八千円となり、合計二十三億八千三百

七十九万八千円となりました。一般会計については、前年度当初予算に比較して三千万円の増加となり、僅かに〇・二割の伸び率となりました。この伸び率は、地方財政計画の二・九割より著しく下回る結果となりましたが、これは約四億円を超過し見込まれる役場庁舎建設事業費を今後追加補正する予定にしているところから、補助金、起債等を一部先送りしたためです。

目的別の 主な予算

昭和六十二年一般会計歳出予算の主なものを、目的別にお知らせします。

単位・千円(内は前年度当初予算)

◆ 議会費
46,095千円
42,989千円

議会費は、前年度に比べて三百万六千円の増額となっていますが、これは六千年度に

おいて、報酬の改訂を行ったための平準化分に相当するものが大半であり、そのほかは議会活動に必要な所要経費を計上したためです。

総務費
218,837千円
209,650千円

総務費については、主として管理部門における職員給与費、需用費等を中心に、一般管理費に、一億五千五百五十二万二千円。

◆ 広報広聴費 百八十八万四千円、◆ 財産管理費 六百六十九万六千円、◆ 企画費 五百五十七万九千円、◆ 交通安全対策費 二百九十九万九千円、◆ 徴収費 二千四百六十七万二千円、◆ 戸籍住民基本台帳費 一千一百五十六万四千円、◆ 県議会議員選挙費、村長選挙費、村議会議員選挙費など合わせて二億一千八百八十三万七千円を計上しています。



民生費
152,650千円
159,362千円

民生費については、一億五千二百六十五万円を計上しました。このうち、社会福祉総務費については、地域福祉の一層の充実を図るため、村社会福祉協議会に、三百二十九万四千円を補助することとしたほか、臨応診療所の経営委託費として二百三十万円、重度心身障害者医療費扶助二百八十五万六千円、民生委員の活動費などを合わせて、一千九百九十七万六千円を計上しています。

◆ 老人福祉費では、老人家庭奉仕員の賃金四百七十六万二千円のほか、在宅福祉の充実強化を図るため、市浦、小泊車力村の三村が共同でリフトバスを購入することとし、その購入費も含め、デイ・サービスマス事業として二百万円、◆ 特別養護ホーム負担金四百八十二万八千円、◆ 太田老人集会所整備費二百万円、◆ 老人保健特別会計への繰り出し金四百四十五万八千円など、合わせて二千五百三十五万円を計

上しました。

◆ 児童福祉費は、総額で九千七百四十二万三千円を計上していますが、このうち常設保育所運営費として七千七百九十八万四千円計上しました。

近年、保育所入所児童数の減少が続いているため、定員の見直しを含めて、その所要経費を計上しました。

また、太田へき地保育所については、これまで四月から十二月までの九ヶ月間開設してきましたが、地元の要望に応じて、年間を通して開設することとし、その所要額四百九十四万七千円を計上しました。しかし、児童館については、その利用効率等を勘案して、六十二年度は休館することになりました。



地域福祉の向上も大きな課題です。



64,374千円
(56,976千円)

衛生費は、前年度当初に対し、十三割増の六千四百三十七万四千円を計上しています。が、住民のより一層の健康増進と老人保健事業の補助制度を効率的に活用し、きめ細かく保健活動を展開してゆくことにしています。

保健衛生総務費では、▼派遣保健職員負担金四百七十一万八千円、▼簡易水道事業特別会計繰出金二千六百八十八万円のほか、各種検診に係る所要額を計上しました。



千七百四十三万二千円

▼村税 一億三千六百九十九万四千円、▼地方交付税 八億六千四百二十一万五千円、▼使用料及び手数料 二千二百一十二万二千円、▼国庫支出金 九

西北五衛生処理組合員負担金一千二十八万九千円及びゴミ収集など、一般廃棄物の管理委託料など、六百六十一万三千円を措置しました。



307,530千円
(339,661千円)

農林水産業費の総額は、三億七百五十三万円で、対前年度比九割・五割、三千二百一十三万一千円の減額となっています。

減額の主な要因は、ため池整備事業^①及び^②「さけ」ます増殖施設整備事業^③が完成したため、その事業費四百四十万円が減となったもので、実質

的には増額予算となっており、す。

▼農業費は、二億二千六百八十四万五千円を計上しています。

水田農業確立 対策実施

水田農業については、国において、これまでの「米から他作物への転換重視の奨励措置」から「構造政策重視の助成措置」へ軌道修正し、

水田農業確立対策を前・後期合わせて六年間にわたって実施されることとなり、本村への転作等目標面積は、他用途利用米生産面積を含め、百三十九ヘクタールの配分で、転作率は二十九割となり、この転作の実施で水稲所得は約四千万円の減収を減ることになり、

地方交付税は、国の財政政策や経済情勢及び補正係数、制度改正などを総合的に検討して計上しました。

村債は、本年度の地方債計画並びに予算事業の起債充当率、既往の実績等を勘案しながら計上しました。

国・県支出金、諸収入等は主として歳出との関連により計上しました。

加えて、食糧管理制度の見直し及び米価の引下げ等が予想されるなど、農家経済は深刻な事態に直面してゆくものと思われま

ハウス栽培の 拡大と複合化

その対策の一環として、六十二年度は、県の補助事業であるパイプ・ハウスを導入し、ハウス栽培の拡大、畑作振興を積極的に進めるための、営農指導の強化、農業複合化の推進事業及び複合農業に不可欠な畜産基盤の整備に重点を置いた予算を計上しました。

▼農業総務費 二千九百一十二万二千円については、管理経費及び天災資金利子補給費補助金、各種負担金等が主なものですが、農業共済事業特別会計への繰出金三百一十五万五千円も計上しました。

▼畑作振興費については、ヤブを克服し、野菜等の産地形成を図るため、昭和六十二年に実施したパイプハウスを更に拡大するため、六十二年度においても引き続き高収益施設野菜産地育成パイロ

活性化センターの建設に着手

▼山村地域資源高度活用促進事業費については、国土庁指定のモデル事業として、本市都市住民との交流を促進する拠点となる地域活性化センターの建設が六十二年度から二カ年の継続事業として着工されることとなりました。

六十二年度実施の事業費分として八百八十万円、これは、木造一部鉄骨コンクリート平屋建てで、総面積は九百五十一・二平方メートルあり、体験実習室、歴史民俗資料館、特産品消費拡大コーナー(レストラン)などが配置される見込みです。

▼林業費は、昭和六十二年度から県が実施主体となっており、昭和三十九年度から昭和三十九年度分として約七割が実施されていますが、その用地別入費等二百四十四万円、集団開伐事業費等合わせて二百三十八万八千円の計上となっています。

岩井牧場の草地改良事業を実施

▼草地開発事業費は、四千二百七十一万九千九百円を計上していますが、これまで実施している県営草地開発事業、国営等草地開発奨励事業、畜産総合対策事業等の継続のほか、昭和六十二年度からは新たに五カ年計画で岩井牧場の草地改良整備事業を実施することになりました。

ア Wib の中間育成施設を建設

▼水産事業費については、七千七百三十二万七千四百円計上して

また、昭和五十六年以來の
懸案事項でありました十三湖
前湖開港については、海中中
間育成漁場の造成に着手す
ることになりました。

これに伴い果は、日本海、
むつ湾、北北、大平洋を対象
としたトラメ栽培漁業計画を
策定し、種苗生産施設等関連

十三湖前湖開港 発に着手

▼水産振興費は、アワビ放
流事業補助金四百四十一万円
のほか、賜元、十三湖漁業協
同組合に対する漁業経営安定
資金利子補給金、通湖シジ
ミ資源保護対策協議会補助金
等合わせて、五百四十四万六千
円、サケ・マス増殖振興費に
六百三十四万三千円を計上し
ました。



商工費については、中島公
園整備事業費五千九百五十二
万三千円、安東文化のふりさ
と整備事業費二千九百六十三
千円ですが、このほか昨年七
月からオーブンのローラー
スカート場、プーカート場の
運営費二百七十七万三千円等
が、その主なものです。

施設の整備を進め、昭和六十
五年度から本格的な放流漁業
を開始し、沿岸漁業の振興を
図ることにしていきます。

この栽培漁業計画では、放
流、施設の管理運営を、社団
法人青森県栽培漁業振興協会
を設立して当ることとして
おり、施設建設費の受益は負
担及び運営のための基金造成
の出資金は、関係市町村、漁
協が参画して行うこととして
協り、本村の負担金は四年間
で五十六万五千円、出資金
は八年間で五百八十二万八千
円、昭和六十二年は、負担
金三十七万八千円、出資費六
十一万八千円を計上していま
す。



消防費については、前年度
当初対し三・七割増の一億
一千八十八万一千円を計上し
ましたが、主なものとしては
津軽北部消防事務組合負担金
三十九万九千七百円、市浦中
学消防団については、団員の
確保と士気高揚のため、昭和
六十年より、二年ぶりで報酬
改訂をすることにしました。

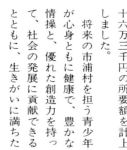
備品購入費については、ホ
ースや防火衣の補充など整備
面の強化を図る一方、消防水
槽を二基建設する予定です。

また、道路新設改良費では
五十九年度より用地買収を進
めてまいりました十三小学校線
を本年度から工事着手する予定
です。その事業関連経費とし
て五千三百円を計上したほか、
相内、十三線の通学施設
整備事業として、総延長四百
六十五分、三千四百万円を
計上しています。

道路維持費には、除雪費七
百四十三万八千円のほか、道
路舗装補修工事、側溝整備工
事費など合わせて一千三百二
十九万円計上しました。



土木費については、一億二
千四百七十万円計上して
います。土木管理費の一千
八百七十八万二千円は、人件
費など管理経費が主なもの
です。



教育費総額で、二億一千二
十六万三千円の所要額を計上
しました。

将来の市浦村を担う青少年
が心身ともに健康で、豊かな
情操と、優れた創造力を持つ
て、社会の発展に貢献できる
とともに、生きがいには満ちた

▼教職員の福利厚生面の充実
と、人事配置を円滑に行うた
め本年度も教員住宅を一戸建
設することとし、その事業費
六百八十四万円を措置したほ
か、規律ある団体生活を通し
て友情と連帯と国際的視野を
広げもらうために、県が行
う青年の船に二名の青年を参
加させるための所要額も計上
しました。

そのほか「文化財保護条例」
に基づき、新たに文化財保護
審議委員会の設置に伴う所要
額のほか、継続実施している
山王坊遺跡発掘調査委託費も
計上しました。

市浦中学校舎の大規
模改修工事を継続

▼義務教育関係費や恒常的経
費を除いた主なるものは、市
浦中学校の大規模改修が二年
次目に入ることから、四千二
百二十六万円の事業費を計上
しました。教育環境の整備と
相まって、生徒の健康、安全、
衛生を配慮してことであり、
来年度も引き続き実施する予
定です。

市浦中学校舎の大規
模改修工事を継続

▼義務教育関係費や恒常的経
費を除いた主なるものは、市
浦中学校の大規模改修が二年
次目に入ることから、四千二
百二十六万円の事業費を計上
しました。教育環境の整備と
相まって、生徒の健康、安全、
衛生を配慮してことであり、
来年度も引き続き実施する予
定です。

市浦中学校舎の大規
模改修工事を継続

▼義務教育関係費や恒常的経
費を除いた主なるものは、市
浦中学校の大規模改修が二年
次目に入ることから、四千二
百二十六万円の事業費を計上
しました。教育環境の整備と
相まって、生徒の健康、安全、
衛生を配慮してことであり、
来年度も引き続き実施する予
定です。

市浦中学校舎の大規
模改修工事を継続

▼義務教育関係費や恒常的経
費を除いた主なるものは、市
浦中学校の大規模改修が二年
次目に入ることから、四千二
百二十六万円の事業費を計上
しました。教育環境の整備と
相まって、生徒の健康、安全、
衛生を配慮してことであり、
来年度も引き続き実施する予
定です。

市浦中学校舎の大規
模改修工事を継続

▼義務教育関係費や恒常的経
費を除いた主なるものは、市
浦中学校の大規模改修が二年
次目に入ることから、四千二
百二十六万円の事業費を計上
しました。教育環境の整備と
相まって、生徒の健康、安全、
衛生を配慮してことであり、
来年度も引き続き実施する予
定です。

市浦中学校舎の大規
模改修工事を継続

▼義務教育関係費や恒常的経
費を除いた主なるものは、市
浦中学校の大規模改修が二年
次目に入ることから、四千二
百二十六万円の事業費を計上
しました。教育環境の整備と
相まって、生徒の健康、安全、
衛生を配慮してことであり、
来年度も引き続き実施する予
定です。

市浦中学校舎の大規
模改修工事を継続

▼義務教育関係費や恒常的経
費を除いた主なるものは、市
浦中学校の大規模改修が二年
次目に入ることから、四千二
百二十六万円の事業費を計上
しました。教育環境の整備と
相まって、生徒の健康、安全、
衛生を配慮してことであり、
来年度も引き続き実施する予
定です。



木工教室等の開催も期待されている。



農水産加工センターでは試作品づくりが...

特別会計

特別会計とは、役場（地方公共団体）が特殊な目的のために、行う事業の収入、支出を一般会計から切りはなして個別に運営するために設けられている会計です。

現在、村には簡易水道事業、国民健康保険、直営診療施設助定、老人保健、農業共済事業、財産区特別会計等があります。



簡易水道

経費の節減で 経営の健全化

市浦村簡易水道事業特別会計は、歳入歳出とも六千八百九十四万円計上しましたが、これは前年度に比べて二割の伸び率となっています。

現在、給水戸数は九百九十二件、普及率が八十五割です。六十二年度には更に普及率の向上に努める一方、経常経費の節減を図り、経営の健全化に努力することとしています。

▼歳入の六一割に相当する事業収入では、四千八百八十万円計上しましたが、前年度の実績見込額と、今後の普

及率等を勘案して計上しました。一般会計からの繰入金金は三十九万、二千六百八十八万円と、前年比四百万円増となっていますが、これは相内浄水場改良工事費と高料金対策費等を勘案して繰出すことにしました。

▼歳出では、総額の六十割を超す建設事業費の償還金四千六百六十二万一千円を計上したほか、人件費に八百六十五万一千円、検定満了メーター取替費用として三百五十六万円、相内浄水場の経年老化に伴う改良事業費として、三百四十三万円計上しました。

医療費の伸び率果内でもトップクラス

▼事業勘定については、全国的に医療費の増加が続いており、当村においても入院を中心とする医療費の伸び率は、県内でもトップクラスにあります。

国民健康保険



市浦村国民健康保険特別会計予算では、事業勘定の歳入

六十二年度の予算編成に当たっては、このように厳しい動向を踏まえ、多額の療養給付費を見込まざるを得ない状況にあります。

この財源を単純に目的税である保険税に求めるとすれば、六十一年度の倍近い負担となります。

被保険者の所得状況や担税

力等から判断すると、多額の保険税を負担していただくのは困難であり、六十一年度も据置きした経緯もありますが、本年度の歳入の引き上げは以上程度の厳しい状況です。

二十割程度にとどめ、残りの財源不足分は、他の経費の節減で賄うことにしました。

▼総務費については、職員給与費を中心に関係経費一千六百二十万八千円、▼保険給付費については、医療費の動向を慎重に検討し、前年度当初予算に対し二十一割増の一億六千三百三十三万四千円、老人保健拠出金は、八千八百六十六万六千円計上しました。



診療施設

直営診療施設助定会計の総務費については、職員給与費を中心に所要額七千九十六万一千円、▼医療費では、六千三百四十八万円を措置しましたが、この中にはテレビカメラ付きのレントゲンカメラの購入費も含まれていますが、▼歳入については、診療収入の一億二千五百八十三万二千

老人保健

市浦村老人保健特別会計では、老人医療費を一億六千二百六十九万四千円と見込み、支払基金交付金など、制度上の負担金を含め、一億六千三百四十万一千円と定めました。

農業共済

農業共済事業特別会計は、農作物共済勘定六千六百三十三万七千九百七十四円、▼業務勘定一千四百九十四万九千四百円、合わせて九千八百八十四千円を計上し、前年度一億二千六百四十七万四千円を増額予算となっていますが、六十二年度において、水稲無事戻金一千六百五十五万円の支出が予定されているためです。

▼業務勘定は、一般管理費の人件費の減により、総額で三億九千九百六十四円が減額となりました。

これに伴い、一般会計からの繰出金を前年度比二百七十七万六千円減額しましたが、果補助金及び転作の拡大によ

財産区

市浦村老人保健特別会計では、老人医療費を一億六千二百六十九万四千円と見込み、支払基金交付金など、制度上の負担金を含め、一億六千三百四十万一千円と定めました。

▼農家の損害防止事業では、水稲の害鳥駆除の実地及び六十二年度に実施する肉用牛のアカバネ病予防注射の一部助成等、所要額百五十一万円を計上しました。

り、水稲作付面積の減少による賦課金の収入が、百八十八万八千円減額となる見通しから歳出も節減を図ることにしています。

▼農家の損害防止事業では、水稲の害鳥駆除の実地及び六十二年度に実施する肉用牛のアカバネ病予防注射の一部助成等、所要額百五十一万円を計上しました。

◆十三財産区特別会計は、羽黒崎の土地売却処分及び管理経費を中心、歳入歳出それぞれ五百六十五万一千円を計上しました。

農水産加工センターで試食会

ウソノこれならいける ウグイのかまぼこ等14品試作 商品化に自信深まる



国土庁の指定事業で完成した農水産加工センターでは、14品の試作品が作られました。

農水産加工センターで試作品作りをしていた十三漁業協同組合では、四月十六日午後一時三十分から、同漁協で、ウグイのくん製やワカサギの

佃煮など、農水産加工品の試食会を開きました。この試食会は、同漁協婦人部が一月間かけて作った十四品を集めて行われたもので、

参加した関係者の評判は上々で、今後の商品化に大きな期待を寄せています。

中

昭和六十年度に国土庁がスタートさせた「山村地域資源高度活用促進モデル事業」の指定を受けた本村は、相内地区に木材工業センター、十三地区には農水産加工センターを完成させました。

豊富なヒバ材と農水産品の加工で村おこしを——との狙いで、木材工業センターは、市浦工業生産企業組合（三浦忠雄代表）に、農水産加工センターは、十三漁業協同組合（工藤章二郎組合長）に、管理運営を委託し、両センターとも新しい名産品作りに取り組んできました。

農水産加工センターでは、同漁協婦人部員らが、二月末から函館市の食品開発研究所や金木地区農業改良普及所等

の指導を得て、試作品作りを重ね、これまでサケ、ウグイのくん製をはじめ、ウグイのかまぼこやサケのフレック、シジミのエキス入りみそ、シツ目うなぎのかまぼの素、八ジミの佃煮、ワカサギの佃煮など、十四品を作り上げました。

補助事業の一つで実施されてきた試作品作りは、三月末で終了し、四月からは本格的な操業となることから、これら試作品の出来具合や、味付けなどを試食し、商品化に結びつけよう——と、この日の試食会となったもの。



ウソノこれならいける——と味見をする関係者。

光協会、婦人水産試験場、金木地区農政普及所等の担当職員など約三十人が出席しました。

試食会に先立って、三重村長は、試作品作りに努力してきた婦人部を激励するとともに「試食会にまでこぎつけたことは素晴らしいことだ。偉業はここ加工品で年商一億円の目標を定めて頑張ってください」とあいさつ。続いて十三漁協の工藤章二郎組合長は、「三月末まで試作品作りをして販売できる状況には至っていないと思う。しかし、これならいける」と、期待できるものもある。婦人部員も積極的



いい味している／チェック用紙に記入。

に取り組んでいるし、研究を重ねて頑張ってくださいとあいさつをしました。

出席者らは一品ずつ味いながらチェック用紙に記入。「いずれの試作品にも独特の風味がある。十三湖特有の味だ。見た目も悪くない。ただちに商品化できる」と、試作品に舌鼓を打っていました。

同漁協では、今月末までに販売価格を決め、新しい土産品として観光客に売り出すほか、今後はこれまでに捨てていた十三湖の小魚加工にも取り組む、地域経済の活性化に役立てたいと、はりきっています。



試食会で心配顔？……十三漁協婦人部員。

着任教職員を 励ます会

サア、市浦で がんばるぞ!

市浦村教育委員会主催の、着任教職員を励ます会は、四月八日午後二時から、市浦村コミュニティセンターで開かれ、着任教職員二十八人の歓迎と激励をしました。

県内の学校教職員の人事異動は、去る三月二十六日発表されましたが、本村からは、二十三人の教職員が転出し、新しく二十八人の教職員が本村へ転入しました。

村内には四つの小学校と中学校一、県立金木高等学校相内分校があります。村内における昭和六十一年度の学校教職員の総数は六十一人ですから、今回の人事異動は近年では大規模なものとなりました。

市浦村教育委員会では、本村へ着任した教職員が一日も早く本村の教育環境や地域に与り込み、少しでも不安な気持ちを解消してもらおうと、四年前から「着任教職員を励ます会」を開催しています。新しく着任した教職員からは「地域の状況や教育方針等



「本村の教育発展のためがんばってください」と激励。

がわかるほか、同じく着任した教職員が一堂に会すことは意義深い。不安だった気持ちが「掃された」と好評でした。今回開かれた「教職員を励ます会」では、主催者代表の柏谷秀一教育長があいさつしたあと、三重賞村長が「市浦村はいま、活力のある村づくりをめざしている。その基礎

となるのが教育であり、人づくりである。学校教職員には学校教育だけでなく、社会教育、成人教育等にも大きな期待を寄せているので、本村の教育発展のため努力して欲しい」と、歓迎のあいさつをしました。

また、白川行雄教育委員長は、「本村の小・中・高校生の学力は、県内でもトップクラスである。はつととした先生活方を迎えることができ、力強く感じている。学校教職員に關しては学校教職員に任せるので、思い切った教育を実施して欲しい」と激励しました。

続いて、工藤誠一助役の乾杯、アビールタイムでは、それぞれ前任校の状況や自己アピールなど、和やかなひとときを過ごしていました。

手作り工芸楽しいナァ

木工教室

くせになりそう...

これまでの木材加工は、男性の仕事というイメージがありました。加工デザイン、塗装、仕上げなどでは、女性の立場からのアイデアや製品開発が注目されるようになりました。

今回の木工教室は、初めての試みとして、女性にでも出来る木工加工をテーマに開いたもので、講師は、弘前大学教育学部助教授佐藤武司

昭和六十年に国土庁がスタートさせた「山村地域資源高度活用促進モデル事業」の指定を受けた本村は、相内地区に木材工芸センターを完成させ、地場産の木材を加工した特産品の開発に努めることにしています。

「楽しんでいける。木工教室は、三月十八日市浦村木工芸センターに、村民六十人が参加して開かれました。

先生を迎えました。

木工教室では、三重賞村長が出村モデル事業指定の経緯と施設の効率利用を呼びかけ、特産品一人一芸を基本に家族みんなが、木材加工に親しめるようにして欲しいとあいさつしました。

このあと、佐藤武司講師が地域資源の活用による特産品の開発と木材加工について説明、助教授の指導で雑木をサンドペーパーで削ったカラフルなルーブタイ作りを楽しみました。



加工作品は、その人の性格がでるものですよ…。親切に指導する佐藤先生(右)

参加したママさんたちは、いずれも工芸品作りは初めてでしたが、最初はとまどってはいたものの佐藤助教授の熱心な指導で、時間がたつにつれて色彩を増してくる雑木に大喜び。最後は、研ぎあげた雑木に金具を取り付け、ひもを通して出来上がったルーブタイを、それぞれ見せあつたり、自慢したりして大事そうに各家庭に持ち帰りました。

今回の木工教室では、約三十人を予定していたのですが若い主婦からお年寄りまで六十人も参加者で、準備した原材料が不足するほどのにぎわいを見せました。

村では、村民の木工加工に寄せる関心が高いことから、今後更計画的に教室を開き、作る喜びを指導してゆくことにしています。



あどけなさが残る顔、顔。



入学式に出席したお母さんもドキドキ……

胸を張り元気 —入学式に見る新一年生— 父母は「ドキドキ」



歓迎アトラクションで和やかに



仲よくしましょう……と黒川君



交通事故にあわないようにしましょうネ！ハイ！！



神秘的な態度で話を聞く新入学児童

村内四つの小学校では、四月七日一斉に入学式を行いました。今年新しく入学した児童は五十八人。
父母に連れられた児童は、真新しいランドセルに黄色の安全帽で入学式に出席し、校長先生や担任となった先生の話を神妙な態度で聞き、楽しみにしていた学校生活のスタートを切りました。
脇元小学校(原田恵章校長)の入学式では、新一年生を十六人(男六人・女十人)迎え

入れました。
父母と一緒に教室に入った新一年生らは、自分の名前が張られている机を見つけてニッコリ。担任の先生が「みなさんはきょうから脇元小学校の一年生です。名前を呼ばれたいから大きな声で返事しましょう」と、一人ひとり名前を呼ぶと、元気に手をあげ、返事をしていました。
入学式では、原田校長が、自分で出来ることは、ちゃんと自分でやること、交通事故

に遭わないように気をつけること」などを、新一年生と約束を交わしたほか、同校児童会長の黒川貴史君が「何でもはくたちに聞いてください。みんなで仲よく過しましょう」と、歓迎しました。
また、二年生から六年生までの歓迎アトラクションもあり、あどけなさの残る新一年生の顔には笑顔もみられ、父母らもホッとした様子でした。



アトラクションの舞台裏



名前を呼ばれて元気に返事する1年生



16人の仲間を迎えてはりきる4年生

思いやりの心を育てよう

市浦村が人権モデル地区に

重点目標 いじめ・体罰の根を絶とう

人権は隣近所の
笑顔から

委員20人で協議会設立
作文コンテストや意識調査等実施

市浦村人権モデル地区推進協議会 会長・市浦村長三重貞が、四月十五日基督集落センター会議室で開かれ、

人権モデル地区推進事業は昭和四十八年度から実施されているもので、人口二万人以下の町村で、地域活動が熱心で、しかも協力的な地区を法務局等が選定、県内ではこれまでに三十市町村の地区が選定されています。

昭和六十二年では、青森管内で東北町、五所川原管内では市浦村が選定受託、人権モデル地区として活動を展開することにになりました。

この日の協議会では、青森法務局漆多嘉喜五所川原支局長が、人権モデル地区に市浦村を選定した経緯と目的を説明したあと、同協議会長の三重貞村長は、「他人を思いやるのが人権の基本である。運動の指定期間は一年であるが、期間にとらわれることなく、

人権モデル地区に選定され、向う1年間の事業計画を話し合った推進協議会



人権モデル地区に選定され、向う1年間の事業計画を話し合った推進協議会

と結ぶいたものと思う。市浦村の総意が結集されるならば、県内モデル地区の先導となる。地域に定着した運動を展開して欲しい」と激励しました。

このあと、出席した委員らの自己紹介があり、会則の審議や役員を選出、続いて向う一年間の事業計画を審議しました。

事業計画では、特設相談所の開設（毎月第二金曜日、八月は第一金曜日）、講演会の開催二回（六月、七月）、映画会三回（六月、七月、八月）座談会二回（八月、十二月）人権意識調査、人権作文、書

道、ポスターの募集、展示、人権の花運動などのほか、立看板、チラシの配布などをして運動を定着させることにしています。

これらの事業の推進に当たっては、行政無線や広報紙などでお知らせするとともに、地区選定が、明るくまっすぐに寄与し、地域住民の福利増進と人権擁護活動に結びつけ、地域住民の認識を深めることにしています。

◆人権モデル地区推進協議会委員は次のとおりです。

- ◆会長 三重貞（村長）、副会長 長成田永吉（人権擁護委員）
- 同高橋敬一（校長会長）、市浦中学校長、監事 青山又（社会福祉協議会会長）、同三和孝徳（村連合PTA会長）
- 委員 高橋精一（保課司）、越野清志（民生委員総務）、白川浅次郎（老人クラブ連合会代表）、奈良しづ江（連合婦人会長）、橋本守美（相内分校教頭）、今真太田小（学校）、横山長（相内小学校）、原田忠喜（脇元小学校）、福多一彦（十三小学校）、鳴海藤雄（人権擁護委員）、安田源藏（同）、鳴海尚志（民生課長）、山内守栄（教委課長補佐）、桑野邦夫（企画財政課長補佐）

善意ありがたう

全労災市浦地区共済会
今年も十万円寄附

全労災青森県市浦地区共済会（中山佐一）では、このほど役場を訪れ、「消防防災対策に役立ててください」と、現金十万円と火災予防の横断旗を寄附しました。

労働者の保険事業を取り扱っている同会では、無報酬で事務を行い、事務員分が剰余金となったことから、その一



部を「火災を未然に防ぐために利用して欲しい」と、寄附したものです。

また、横断旗は市浦村消防署、同消防団に各一枚ずつ寄附しました。同会では、昨年も現金十万円寄附しており、村では早速防災対策費として利用することになっています。

行政連絡事務を受託

町内会連合会総会で決定

市浦村町内会連合会（古川長光会長）の昭和六十一年度の総会は、三月十九日午前十時から、市浦村役場会議室に村内十一町内会の会長らが出席して開かれました。

同連合会は、昭和六十一年一月二十日設立され、町内会相互の連絡調整や各種事業に対する指導など、上位組織としての役割を果たしています。総会では、古川長光連合会長があいさつしたあと、三重寅村長が祝辞を述べました。

続いて、昭和六十一年度の事業報告並びに収支決算報告、昭和六十二年の事業計画並びに収支予算案を審議し、承認しました。

特に近年、稲作の減反、シジミの不漁等、村の基幹産業の不振により、労働力の村外流出で人口の減少が増え続けていることから、町内会としても重大な関心をもち、昭和六十二年の事業へ反映させることになりました。

また、町内会が、地域住民の連帯と、地域に密着した生活、文化、余暇活動を展開するほか、地区住民と行政との連絡調整を積極的にすすめてゆくことになりました。

当面の活動としては、広域的な問題を取りまとめること、行政との窓口にあたることにしていますが、六十二年からは、行政連絡事務を受託することになりましたので、地区住民相互の連帯を更に深めてゆくことを確認しました。



村内11町内会会長が出席した総会



町内会のあり方も話し合いました

お母さんは家庭のリーダーです

交通安全母の会が総会

毎月1日は交通安全を語る日に



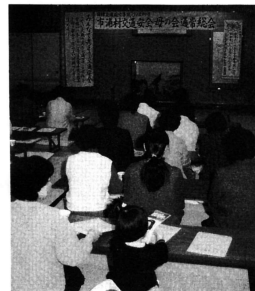
交通事故防止は私たちの手で……

市浦村交通安全母の会（小山あぐり会長）は三月二十日市浦村コミュニティセンターで、六十二年度の総会を開き、新規事業として、毎月一日を「交通安全を語る日」とすることなどを決めました。

総会では小山会長が、一年間の活動経過と新年度における目標などを交えながらあいさつ、工藤誠一郎村助役が祝辞を述べました。

続いて、議事に入り六十二年度の事業報告などのあと、今年度の事業計画、同予算を審議し、いずれも原案通り承認されました。

今年度の事業計画では、村



広報発行などを決めた総会

民の尊い命を交通事故から守るため、交通安全は家庭の中から含み言葉に推進する。交通安全の輪を、村民一人一人に浸透させるため、母の会の役割と責任を認識し、積極的に事業を推進することにしました。

重点目標としては、シートベルト、ヘルメット着用運動の推進、交通安全家族会議の開催、若年運転者及び高齢者の事故防止、子供と高齢者の保護などを掲げていますが、毎月一日を「交通安全を語る日」に定めて、地域ぐるみで事故防止に努めることにしました。また、母の会相互の連携と、地域住民へ運動の輪を広げるために、会報を発行することも決めました。

青年海外協力隊員

萬谷美奈子さん

アフリカへ出発



ナ) 出発のあいさつをしまし
た。

国際協力事業団の青年海外
協力隊に参加することが決ま
った。萬谷美奈子さん(相内
・24歳)は、三月二十七日市
浦村役場を訪ね、三重県村長
ら村三役に、アフリカ(ガー

ナ) 北郡中里町の内海療護園に
勤務して五年八ヵ月。萬谷さ
んは、体に障害を持つ施設の
人たちとふれあひながらも、
「貧しく、食生活にも恵まれ
ないアフリカの子供たちも氣
がかりでした。栄養失調や餓
死してゆくアフリカの子供た
ちを新聞やテレビで見ると
に、かわいそうで」。萬谷さ
んは、二年前から新聞の切り



萬谷さんは遠い国ガーナでがんばっている。



「貴重な体験となるはずだから、がんばって
きてください。」村長に激励されました。

62年度青年海外 協力隊を募集

「健康、食生活、言葉などに、
少し不安はあるのですが、こ
れも青春の一ページ。がんば
つてきます」と、ニッコリす
る萬谷さんは、三月十八日
出発し、二年間ガーナに滞在。
昨年、青年海外協力隊の募
集要項を手にしたときから、
アフリカ(ガーナ)を希望地
として、勤務先の園長や同僚
に相談し、快諾を得ることが
できた。
働きながらの受験勉強やそ
の準備に追われたが、「アフリ
カの子供たちのことを思えば
苦しい」とはなかった。とい
う萬谷さんは、昨年十二月か
ら今年三月までの三ヵ月間、
東京都内でアフリカ(ガーナ)
の食生活、語学等ひと通りの
実地研修を受けた。

- ◆協力隊はアジ
ア、アフリカ、
中近東、中南米、
南太平洋の開発途
途にある国々
に対して経済、
社会の発展のた
めに技術、技能
を身につけた、
心身ともに健全
な日本の青年を
派遣して、各国
の国づくりに協
力していきます。協力隊では昭
和六十二年度春の隊員を、次
に募集します。
- ◆資格 満20歳以上、原則と
して35歳までの日本国籍を持
つ青年男女
- ◆願書締切 昭和62年5月31
日消印有効
- ◆選考試験 第一次選考(筆
記試験)作文、英語、技術
昭和六十二年六月二十一日
(日)各都道府県で実施。
第二次選考(面接)個人、技
術、健康診断書にもとづく問
診及び検査等、昭和六十二
年七月二十二日(水)から二
十九日(水)の一日東京で実
施(予定)
- ◆派遣期間 二年間
- ◆海外手当等 現地生活費月
額二四〇、〇四四〇(派遣
国の生活実態にもとづき支給
額に差がある)。その他に無職
で参加の場合、一ヵ月あたり
日本滞在期間に五万円、海
外在任期間に九万円)が積立
金として帰国時一括支給され
ます。
- ◆費用 訓練、派遣に係わる
経費(往復航空費も含む)・災
害補償等事務局負担。
- ◆休暇等 所属先補てん制度
休暇等の措置を希望する
方はその条件として、業務
との関連のある分野への協力
であること、また、少なくとも
三年間の勤務実績があるこ
となどが必要である。早目に勤
務の場合はさらに間接経費を
補てんする制度もあります。
- ◆応募方法 協力隊所定の願
書を期日までに事務局へ提出し
てください。
- ◆問い合わせ先 国際協力事業
団青年海外協力隊事務局、東
京都渋谷区広尾四一―二―四
電話〇三―四四〇〇―七二六

◆六十二年度春募集説明会

月日	曜日	時間	市名	会場名	所在地	電話
5月21日	金	18時～20時	市前	弘前文化センター	〒030 弘前市下 七丁目の4	〇二七二 七二七
5月22日	土	18時30分～	青森	青森文化会館	〒030 青森市 百目町1丁目	七三三〇 七三三〇

情報をお寄せください

おしらせ

役場の電話は62-2111



こんにちは赤ちゃん



成田晋治さん(磯松)
長男和也ちゃん
(1991年)
お父ちゃん東京から帰
っているんだ。だから
ボク、お父ちゃんとい
つばいあそぶんだ。

市浦分署が 4月1日から 市浦消防署に

市浦分署は、昭和47年10月1日、津軽北部消防事務組合市浦分署として発足し、消防活動を続けてきましたが、このたび、消防議会の議決を得て、4月1日から消防署に格上げとなり「市浦消防署」として再出発することになりました。これまで、消防本部の取り扱っていた建築同意等の業務は、これからは市浦消防署で取り扱います。

なくすな緑、なくそう山火事// 山火事防止協力を

山火事防止強調月間
62年4月10日～
6月9日までの3ヵ月間

貴重な森林を守り、豊かな郷土を築くため、山に入る方は、是非次のことを守りましょう。

- 1 たき火をしたときは、あと始末を完全にしましょう。
- 2 たばこの吸いからは、必ず消しましょう。
- 3 風が強いときは又は空気が乾燥しているときは、火の使用を避けましょう。
- 4 火入れば、必ず市町村長の許可を受けましょう。

なお、山火事を発見したときは、すぐ最寄りの消防署、警察署(駐在所)、市町村役場、農林事務所等に連絡してください。

こくみんねんきん

国民年金保険料は4月分から7,400円となりました。老齢福祉年金等の受給者が、他の公的年金を受けたときには、届出が必要です。

反則金 駐車違反1万円に//

道交法の一部改正で、反則金が全面的に改正され、4月1日から施行されています。例えば普通車のスピード違反15%未満が現在の6千円から9千円へ、駐車違反も現在の5千円から1万円に引き上げられました。また、罰則が適用される反則行為にも反則金が科せられるなど、範囲が拡大されています。

違反をおこさないよう十分注意してください。

(金木警察署、相内、十三駐在所)
道交法違反の反則金一覧表

違反(反則)行為 (単位:km)	改正反則金額(単位千円) ()は現行		
	大	普	原
速度違反25以上30未満 (時速・km)	25 (-)	18 (-)	15 (-) 12 (-)
速度違反20以上25未満 (同)	20 (15)	15 (10)	12 (8) 10 (7)
速度違反15以上20未満 (同) 遮断路切入入りなど	15 (10)	12 (8)	9 (6) 7 (5)
速度違反15未満 (同) 信号無視など	12 (8)	9 (6)	7 (5) 6 (4)
通行止違反 一時不停止など	9 (6)	7 (5)	6 (4) 4 (3)
駐停車違反(禁止場所等)	15 (6)	12 (5)	7 (3)
駐停車違反 駐停車方法違反など	12 (6)	10 (5)	6 (3)
定員外乗車 バスレーン通行違反など	7 (7)	6 (4)	4 (3)
右左折方法違反 初心者標識表示義務違反など	6 (4)	4 (3)	3 (2)
免許証不携帯など			3 (2)

困っていませんか

青森行政監察事務所から

総務庁では、住民の行政に関する苦情等の相談に応じ、その解決を手助けするため、4月から次の方を「行政相談委員」に委嘱しました。

白川 行雄
市浦村大字相内字相内66の1
電話 62-2788 番
相談は、無料で口頭、電話、手紙のいずれの方法でもかまいません。相談を受けた行政相談委員は秘密を守り親身にお世話をすることになっています。

相談の内容は、役所の仕事に関することであれば何でもよく、例えば、役所の仕事の違い、不親切だ、納得できない、法律や手続きがわからない等、日ごろお困りになっていること、不満に思っていることが対象になります。

善慮

ありがとう

◆市浦村商工会婦人部(佐藤綾子会長)では、コミュニティセンターで行われた市浦村総合落成式のボランティア活動での収益金の一部一万五千円を、社会福祉に役立てて欲しいと、村社会福祉協議会へ寄付しました。

◆相内百万遍念佛講中代表の久保田タヨさん、伊藤キエさんの二人が、四月三日役場を訪れ、一万円を村に寄託。村ではこれを「たすけあい基金」として活用するよう、村社会福祉協議会へ寄金するにしました。

◆中井春代さん(六万四千十七円)
◆つくし会(山内イヅ代表)二万円

ありがとうございました。



成田収入役に寄附金を手渡す伊藤さんと久保田さん



参加してネ!

健康教室

保健衛生協力員の地区別会議で、六十二年度の「健康教室」の日程と、その内容が決まりましたのでお知らせします。

月	日	曜日	地区	場所	時間	内容	講師
S62.	6.24	水	桂川	保健福祉館	13:00~15:00	がんを予防する日常生活	保健婦
"	8.3	月	磯松	磯松公民館	13:00~15:00	家庭の健康チェックー病気の早期発見法ほか	診療所 専長
"	8.18	火	相内	コミュニティセンター	10:00~14:00	親子料理教室	農業改良普及員
"	10.6	火	脇元	脇元公民館	10:00~14:00	健康づくりの食生活	農業改良普及員
"	11.17	火	太田	太田生改センター	18:00~20:00	スマート教室① 開講式 肥満の判定・ストレッチ体操	
"	12.15	火	"	"	18:00~20:00	肥満と成人病	診療所 専長
S63.	1.12	火	"	"	13:00~15:00	肥満予防の食事プラン	保健婦
"	2.2	火	"	"	10:00~14:00	1,800Kcalの食事づくり	栄養士
"	2.29	月	"	"	13:00~15:00	スマート度測定	保健婦
S62.	12.22	火	十三	十三公民館	18:00~20:00	成人病教室 ① 開講式 成人病を克服する	診療所 専長
S63.	1.13	水	"	"	10:00~15:00	機能訓練のしかた	理学療法士
"	1.29	金	"	"	13:00~15:00	家庭看護のしかた	保健婦
"	2.9	火	"	"	13:00~15:00	家庭看護のしかた II	保健婦
"	2.23	火	"	"	10:00~14:00	健康長寿食の作り方 反省会	栄養士
S62.	9.9	水	全村	コミュニティセンター	9:30~15:00	家族のためのリハビリ教室	
"	9.10	木	"	"	10:00~15:30	"	

※タメになると好評だった糖尿病教室を毎月1回市浦診療所で実施します。特に今年は勉強会等にも内容を充実させます。

「観光施設が」
「近いです」

村では、歴史と観光を結びつけた「安東文化のふるさと整備事業」を実施し、これまで十三湖中の島公園や相内地区の観光施設を整備しました。これら観光施設の整備に伴って、観光客も増えています。が、施設に落書きをしたり、公衆便所から鏡を取ったり、ドアをこわすなど、心ない人のいたずらに利用者は大変困っています。



いたずらはやめて、公衆便所のガラス戸は二枚ともこわされ、鏡も全部取られている。

島公園がオープンし、本村も観光シーズンを迎えます。利用者が気持ちよく利用できるように、観光施設は大切に保存したいものです。

広い川原に春が来た...
毎年4月は河川美化月間です。

ポイント



建設省・五所川原出張所



四月二十日午前十一時四十分
五分、心筋梗塞(こうそく)

柏谷教育長死去

竹内保志(板柳)
三本元子(相内)
石黒しのぶ(東京)



ご結婚

秋田 貴(相内) 孝
成田 雅史(相内) 幸弘
成田 聖司(相内) 幸弘
濱田 麻美(十三) 盛彦
白川 明紀(脇元) 一紀
お誕生



おくやみ

菅野千草(脇元)
石橋加奈枝(八戸)
岩間正彦(相内)
大西みき子(磯松)
西敏夫(磯松)
相田利恵子(磯松)
太田明美(太田)
奈良郎(五所川原)

のため北郡金木町菅原の公立金木病院で死去しました。七十四歳。
柏谷秀一さんは、昭和三十一年から市浦村議会議員を二期、三十八年から四十六年まで同村長を二期務め、五十八年から現職。
六十二年春の叙勲で勲四等瑞宝章を受章。